



みみだより No.47

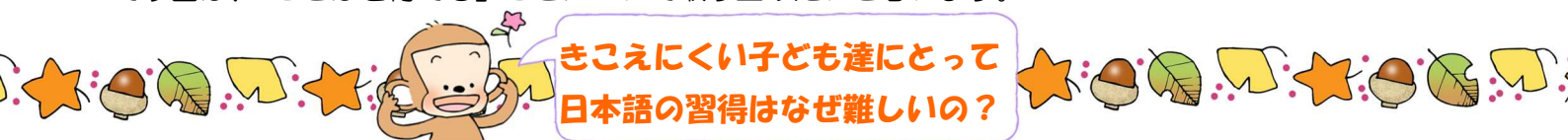
鳥取聾学校ひまわり分校

聴能担当

R5.9.15

文責：手島

暦の上では秋を迎えましたが、残暑で汗ばむ日がしばらく続きそうです。頑固な夏にもう少し付き合うつもりで暑さ対策にも気を配っていきたいと思います。2学期も元気に過ごしていきたいですね。さて今回は、「ことばを育てる」ことについて取り上げたいと思います。



きこえにくい子ども達にとって 日本語の習得はなぜ難しいの？

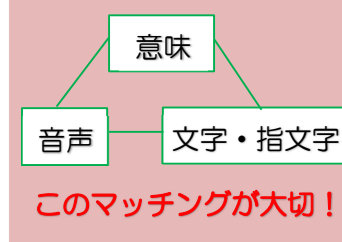
きこえにくい子の日本語の獲得はどのように進むのでしょうか？子どもによって、主としてどのコミュニケーションモードを使って日本語を獲得していくかは違ってきます。

①聴力活用中心（+手話）に日本語獲得が進む子どもたち

②指文字や文字を中心に日本語獲得が進む子どもたち

以上の2パターンがあるとされています。

きこえにくい子はきこえる子と同じだけの情報を自然には得ることが難しく、どうしても身につける語彙量が限られる傾向があります。それをどう補っていくのが大切です。きこえにくい子ども達には耳からだけでなく、目で見て分かる文字や指文字があって初めて正しい日本語が習得できます。曖昧な音声だけのやりとりでは、ことばを間違えて覚えたり、助詞が身につけていなかったりなど、後々の「書きことば」の習得に欠かせない文法上の課題がでてきます。きこえにくい子ども達のことばを伸ばすためには、手話での豊かな会話を広げながら、その力を日本語（音声・指文字・文字）に結びつけていくことが大切です。ご家庭でも日々のコミュニケーションの中で次のような配慮・工夫を実践してみてください！



ことばの力を伸ばす家庭での配慮・工夫

- ①正しい文で話しかける。（「はい、水。」よりも「水を飲もう。どうぞ。」）
- ②まわりの大人が積極的に挨拶のことばを使う。（「おはよう。」「ありがとう。」「おかえりなさい。」などの習慣化）
- ③子どもの興味に合わせて本の読みきかせをしたり、内容について話し合ったりして、いろんな話をする時間をとる。
- ④絵日記をかいたり、ことば絵じてんを作ったりしながら、経験したことを話し合い、文や絵・写真などでまとめる。
- ⑤会話する時、手話だけで終わりにしないで、日本語の習得に結びつけるよう意識する。（はっきりわからせたいときは文字で書く）
- ⑥「いつ」「どこ（で・に・を）」「だれ（が・に・を）」「なに（が・に・を・で）」「どうして」などの疑問詞を使う。
- ⑦わからなかった時は、そのままにしないで、必ず「もう一度言って。」ときき返す。
- ⑧音や声がきこえた時、子どもに意識させるようにする。（「今、ピンポンってきこえたね。」「ゴーッ。電車の音、すごかったね。」）



ワンポイント 手話



引用・参考文献

- 「難聴児はどんなことで困るのか？
—豊かな心とことばを育てるために—」
難聴児支援教材研究会
- 「どうすればことばが育つか？
9歳の壁を超えるために」
全国早期支援研究協議会